

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991100025		
法人名	有限会社 マイホームコーナ		
事業所名	グループホーム来夢		
所在地	矢板市石関1317-3		
自己評価作成日	平成30年10月20日	評価結果市町村受理日	平成31年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	平成30年11月27日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様個人の尊厳や自由、選択等を尊重し、安心・安全で生き生きとした笑顔のある日々が送れるよう支援しております。また、家庭菜園や日々の活動などご利用者様の残存機能活性化を図り、ご家族様にも安心とゆとりを提供していくと共に、自分自身が受けたいと思うケアを提供しております。また、入居者様の重度化を考慮しH30年5月より週/1回訪問看護師による医療連携体制を開始し、職員も対応できるよう日々研鑽しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、JR片岡駅のほど近くに位置し、3年前には駅舎が建て替えられたことに伴い、近隣の環境がより便利に変化している地域にある。事業所前の道路は、地元小学生の通学路になっており、通学時には子供達の元気な声が聞こえてくる。近くの住宅には桜や紅葉の木があり、季節の移ろいを感じながら、利用者は近隣の散策等を楽しむことができる。職員は、「自分が受けたいケア、利用者の尊厳の尊重」という事業所理念に基づき、「利用者本人が好きな時に、好きなことをする」ことを念頭に、事業所を利用してからも、それまでの生活と変わらない安心を提供することを目指している。それは、「介護する」ではなく、「ご本人を支える」という事業所の姿勢にも反映されている。事業所の庭を利用して農作物を栽培したり、食事の準備や片付け等日々の生活の中で、利用者ができること、得意なことを職員や家族の支援のもと実践することで、利用者の意欲や喜びにつながるようなケアに取り組んでいる。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分自身が受けたいケア・その人らしい暮らしとは何かという事業所の理念を念頭に置き、朝夕の申し送り時に理念を唱和し、共有と啓発を図り、理念に沿った支援を行なっている。	職員全体で理念に基づいた支援ができるよう、朝や夜勤前に唱和して意識化している。支援について検討が必要な際は、理念に立ち返り、それを軸に検討していくことで、より良い支援につなげるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の行事には可能な限り協力、参加している。また通学路に面している為子供たちに声かけ見守りをしたり、近隣の方と世間話をするなど日々交流をしている。	近くに小学校があり、事業所が面する道が通学路のため、子供達と利用者が、自然に声を掛け合い交流している。地域のボランティアが踊りや手品等のレクリエーションを行っており、利用者の楽しみにもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての情報などキャラバンメイトさんを介して話を聞いて頂く場を設けたりしている。また散歩など通じて地域の方に情報を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行ない、運営・活動状況を報告している。委員の方の助言や提案、意見を取り入れサービス向上や環境整備にも活かしている。	事業所として課題に感じていることを、運営推進会議の議題に盛り込むことで、参加者全体で解決策を検討している。対応した内容は、次回の会議で報告する等、会議がより効果的な場となるよう取り組んでいる。	固定のメンバーに留まらず、会議の議題に応じた参加者を確保するため、開催日の工夫で、より多くの参加、意見が得られることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは必要に応じて連絡を取り合い相談を行なっている。またグループホーム交流会やサービス連絡協議会に参加し情報などを得てサービスの質の向上を図っている。	市の担当者は、運営推進会議にも参加しており、事業所の運営に積極的に関わっている。日頃から事業所の状況を伝える等、こまめに連絡を取り合うことで、円滑な事業所運営につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを整備し、内部・外部研修をにて身体拘束を学び意識付けを行なっている、身体拘束のないよう細心の注意を払っている。H30.7月より身体拘束委員会を設け2か月に1回委員会を開催している。	マニュアルの整備や研修会への参加により、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。研修に参加した職員が事業所の他の職員に研修内容を伝達することで、事業所全体で情報を共有し、より良い支援につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアルを活用し内部研修をしている。また外部研修にも機会あるごとに参加し虐待についての意識付けを行なっている。日常のケアにおいて、身体的、精神的虐待が発生しないよう細心の注意を払い虐待防止に努めている。		

グループホーム来夢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加する機会を順次設け、内部研修を行ない知識の向上を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時本人・家族に十分な説明を行ない、不安や疑問点などをお聞きし、納得・理解を得たうえで契約を行なっている。また、改定時には書面をもって説明し理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様との日頃の会話を大切にし、その思いを聴き信頼関係に繋げている。また、毎月ご家族様に足を運んで頂き対話する時間を持ち、さらに施設の行事感謝祭などで意見や要望等、話やすい環境をつくり努めその意見を運営に反映させている。	日頃の会話から、利用者の希望を聞き取り、その思いを大切にしている。家族とは、できるだけ会える機会を持つとともに、本人の様子を紙に書いて渡している。事業所の「感謝祭」は、本人、家族、職員と一緒に過ごし、思いを伝え合える貴重な時間となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を設け、スタッフの意見を取り入れ働きやすい職場づくりに努めている。また可能な限りスタッフの意見を反映している。	スタッフ会議の開催や、申し送りノートの作成を通して、職員の考えを共有できる環境を整えている。職員のアイデアをできるだけ取り入れることで、利用者の生活の質が向上するとともに、職員の働く環境にも良い影響を与えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者自ら職場を視察し、スタッフと会話するなどして、日頃の思いや困りごと等を把握し、気持ちよく働ける環境・条件づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて各種の研修に参加している。また研修で得た知識を内部研修の場で報告し、スタッフが共有している。また各月、議題・担当を決め内部研修を行いスタッフの意識向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に他グループホーム事業者と交流会を開催し、問題点や取り組みの情報を交換している。また、各グループホームを訪問し意見交換等行なっている。これらの活動を介してサービスの質の向上に繋げている。		

グループホーム来夢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に本人から困っている事や不安なこと、望んでいる事などを傾聴し、入居後も担当者を中心に信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時や契約時に、困っていることや不安なことをなどをよく聞き、要望に応えられるように努め、よりよい関係がもてるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせや見学時において利用者様の状態を伺い、グループホーム対象者でない場合は利用者様に適していると思われる事業所、または相談先(包括など)を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節の行事や郷土料理やその伴う行事食などを教えて頂き一緒に料理を行なっている。また昔の話や行事、生活などを聴いて支え合う関係を築いている。家庭菜園も教えを請いながら行ない収穫を楽しみ、味わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より気楽に話ができる環境、雰囲気作りを中心に心掛けている。面会時には普段の様子を報告し、情報の共有に努めている。また、困りごと等も相談し家族の協力を得て支援している。また月1回は必ず面会をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者がこれまで培ってきた人間関係や地域との繋がりを本人や家族から確認し、入居後も継続できるよう家族の協力を得ながら支援している。馴染みの知人が訪ねてきたり、家族との外出・外食、地域の敬老会への参加など本人の希望に合わせた支援を行なっている。	家族や友人が事業所に足を運びやすいよう、自由に面会ができる雰囲気作りを努めている。家族の協力を得ながら、外食や病院、美容室等、慣れた場所で、本人が安心して生活を送れるような支援を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業やレクリエーション活動を通じてよりよい関係づくりに努めている。また利用者同士が声かけ合い、お互いを心配したり、助け合う姿も見られ今後も継続できるように支援していきたい。		

グループホーム来夢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽に来て頂けるよう働きかけている。街中で挨拶を交わしたり、その後の様子をお聞きすることもある。またホームまで家族が来られることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人、家族から生活歴や趣味趣向などを確認するとともに、日々の会話、表情、仕種等から本人の意向や想いを推し図っている。	日々の会話を大切に、思いや希望をくみ取り、記録に残すことで職員間でも共有している。食事や入浴の時等、利用者と職員が1対1で会話できる時間は、より利用者の思いが聞ける機会であり、大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時、本人・家族からお聞きするとともに、入居後も日々の会話や家族の話などを聴いてケアに繋げている。また面会時には生活状況等を報告し、その都度お話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者ひとり一人の身体状況を日々確認し、本人ができる事を見出し、その方の状況に応じた一日を過ごせるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時等に現況報告や月々のご様子記録を基に意見やアドバイスを頂き、それらを担当者を中心としたカンファレンスで検討し介護計画書を作成している。	本人や家族の意向、それまでの経過等を大切に、希望を踏まえて介護計画に反映している。担当職員によるカンファレンスでは、様々な情報が出てくるため、そうしたものも盛り込みながら、現状に即した計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別のケース記録に記入し、気づきや疑問点などを申し送り時やスタッフ会議等で話し合い、ケアや介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により、その都度要望に応えられるよう支援に努めている。急な外出、外泊、通院等にも柔軟に対応している。		

グループホーム来夢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々と共に協力して支援している。また、消防署の指導の下、定期的に避難訓練を実施している。また、運営推進委員の方々の協力のもと緊急連絡網を作成している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所としては協力医を設定しているが、基本的には本人・家族の希望する医療機関を定期的受診して頂いている。血圧記録ノート他を作成し医師との連携に努めている。また上申書をもって主治医に報告、指示を仰ぐこともある。	事業所の協力医への受診の他に、家族の協力のもと、かかりつけ医での受診も行っている。同行する家族には、口頭やメモ等で本人の状況を伝え、本人の様子や変化が分かるよう、家族、事業所、医師とが連携して対応できるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	在職看護師を中心に毎日の健康管理・内服薬管理等をおこなっている。また、週1回訪問看護師の診察もあり、助言・指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報用紙を作成し、情報を提供している。また入院中は病院の担当者等と連絡を取り情報交換や経過を確認し、必要に応じて家族と今後の方向性を話し合っている。退院時には可能な限り拡大カンファを開いて頂き、家族と共に主治医または担当看護師より情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や急変時の対応についてはグループホームとして「できる事・出来ないこと」があることを契約時に説明している。重度化した場合には主治医と相談しながら支援している。時には往診もお願いしている。また、状況により訪問看護師の指導も仰いでいる。終末期の対応はご家族と相談の上、主治医・訪問看護等の医療連携を取りながら取り組んでいる。	契約時に、事業所としての終末期等の対応について説明し、家族の協力が必須であることも伝えている。事業所として看取りの経験はあるが、職員の不安も大きいことから、訪問看護の看護師等に、看取りについての研修を依頼する等、日頃から体制づくりに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修を行ない、知識・技術の向上を図っている。普通救命講習1受講を促している。今後、訪問看護師の講話・指導を受ける予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署員立ち会いの下、避難訓練を行ない知識、技術の習得に努めている。近隣の運営推進委員の方々の連絡網を作成し協力を得ている。	避難訓練では、夜間想定も訓練も行っている。自治会長や地域の方も含めた緊急連絡網を整備し、緊急時には速やかに対応できる体制整備に努めている。備蓄品の定期的な確認も行っており、災害時の備えを進めている。	

グループホーム来夢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームの理念の基づき人格の尊重やプライバシー、言葉かけや接遇などを内部・外部の研修会やカンファレンス時の議題とし、必要に応じて見直し対応を図っている。	声掛けは耳元で行う、プライバシーへの配慮が必要な場面では個室を利用する等、職員全体で配慮するよう心掛けている。個人情報の取り扱いについては、本人、家族に必ず許可を得る等、事業所として人権意識を持つよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本意で事を進めるのではなく(緊急時は別)利用者本人の意向を確認し、利用者の目線で、利用者主体であるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活状態や会話の中から利用者様の想いや希望をくみ取り、担当者や他スタッフの意見を交え、個々のペースにあった過ごし方ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に近隣の理容師に来所して頂き散髪をして頂いている。日常の衣服も本に確認しながら季節感やスタッフの助言を交えながら支援している。また季節ごとに家族が衣類を準備交換される方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や畑で収穫した野菜を取り入れ栄養バランスを考慮しながら調理している。利用者と共に買い出しや調理を行なっている。スタッフも一緒に会話をしながら食事をしている。また、干し柿や芋がらづくりなど田舎ならではの楽しみをしている。	利用者は、庭で野菜を栽培したり、食材の買い出し、食事の準備、片付け等、それぞれができることを職員と共に行っている。手作りの食事を、利用者と職員と一緒に会話しながら食べることで、利用者の笑顔や喜びにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の献立や食事量、水分摂取量を介護記録に記載している。また利用者と共に食事をするにより一人ひとりの咀嚼や嚥下状態をよりよく観察することができ、その人にあった調理方法や介助方法に反映し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。出来ない方は介助し、出来る方も声かけ、見守りを行なっている。時により自尊心を損ねないよう配慮し、舌苔の確認も行ない、舌みがきもお願いしている。またリハビリ体操時のも嚥下体操を組み合わせ行なっている。自分の口で食事が摂れるよう支援している。		

グループホーム来夢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを記録、観察し、把握に努めている。介助を要する方には定期的に声掛けを行いトイレ誘導をし排泄の失敗を軽減している。現在布パンツの方が3/9名居られる。	排泄支援の際には、自身でトイレに行けるよう見守るとともに、声掛けは耳元で行うよう努めている。1対1での支援を基本とし、排泄中、職員はドアやカーテンの外で待つ等、羞恥心にも配慮した支援を職員全体で心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適量の水分量の確保、運動を行い予防に努めている。また、消化の良い食材を提供している。便秘気味の方には主治医と話し合い、便を柔らかくする薬や下剤を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は1日おき週3日を基本としている。1対1で支援している。順番は業務日誌に①・②と記録し同じ方がいつも1番にならないよう工夫している。但し、農作業等で汗をかいた時には入浴・シャワーを希望により柔軟に対応している。冬にはリンゴやゆず風呂を楽しんで頂いている。	入浴時間は、午前・午後の選択制で、本人の希望により、シャワー浴や、毎回入る順番に配慮する等、気持ち良く入浴できるよう努めている。浴室の改装時には、職員のアイデアで手摺を増設する等、安全な環境整備にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来る限り身体を動かすよう助言し、夜間は安眠できる健康的な生活がおくれるよう支援している。また、個別に午睡にも対応してしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬ファイルをつくり個々に収納・名札を付けて管理。個々のファイルを開けると薬の説明書が一目でわかるよう順次ファイルされている。また、症状に変化が見られた場合には家族を通じて主治医に連絡報告をしている。スタッフに対しても定期的に内部研修を行ない、知識の向上に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族から生活歴や趣味等をお聞きし、出来るだけ本人の意向に沿った活動ができるよう支援している。その人にあつた役割(テーブル拭き・おしぼり配りなど)また、塗り絵や工作、野菜作りなど楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じてその日のプチ外出(散歩や近隣の足湯)を行なっている。また家族と相談し正月やお盆の帰宅、墓参り、友人宅への訪問外食など本人の希望に添えるよう支援している。普段いけない所(紅葉狩り・やな・芝居見物)等遠出は家族の協力を得ながら行なっている。	事業所近隣への日々の外出(散歩、買い物等)や、家族の協力を得て、墓参りや外食等、本人の希望を叶える努力をしている。時々行くドライブでは、車窓からの風景に、昔を思い出す利用者もおり、職員がその方のこれまでの生活を知ることで、会話のきっかけにもつなげている。	

グループホーム来夢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設では金銭は所持しないことになっている。必要時にはホームで立て替え買い物支援をしている。現在、自己管理出来る方が少額の現金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人から規制がなければ自由にして頂いている。手紙や電話で家族と連絡を取り合っている。なかには年賀状をホームで家族と一緒に書かれる方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	活動時やイベント毎の写真や季節毎に利用者で作成した飾り物を壁面に飾っている。大きな窓からは外の景色が見渡せ自然を感じられる。畳の部屋では昼寝やこたつを置いて団欒も出来るようになっている。また、ホールにソファを置きゆったりと過ごせるようにしている。	明るい雰囲気となるよう、リビングにはイベント時の写真や利用者の作った作品を飾っている。喉が渴いた時に自由に飲めるドリンクコーナーがあり、中身も利用者の好みに合わせて用意している。居室につながる廊下には長椅子を置き、利用者と職員の憩いの場となるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	対人関係、車椅子利用者や歩行状態等により席を決めているが、食事以外は自由に使っている。テレビを観たり、新聞を読んだり、談話や工作、塗り絵、裁縫など用途は様々である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室南向きとなっており、明るい空間となっている。また、使い慣れた家具や寝具類を持ちこまれている。飾り付けや家具の配置などは本人が居心地の良い環境となるよう空間作りに配慮している。	利用者にとって使い慣れたもの、大切なもの、あるいは居室に合わせた新しいものを、家族の協力も得て配置している。壁面の一部が板づくりとなっており、利用者が思い思いに壁を飾れるよう配慮し、その人らしさの出る空間づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器や杖、車椅子利用者の方々が移動しやすいよう施設内はバリアフリー仕様となっている。ホール内や廊下には物を置かないよう配慮している。		